

Bo-4
 T. P. +97.98m
 dep=18.00m

Bo-6
 T. P. +98.11m
 dep=18.00m

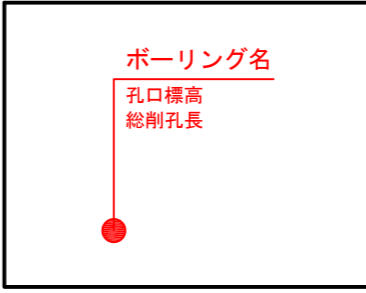
Bo-2
 T. P. +97.68m
 dep=18.00m

Bo-3
 T. P. +98.18m
 dep=18.00m

Bo-5
 T. P. +98.05m
 dep=18.00m

Bo-1
 T. P. +97.42m
 dep=18.00m

旗上げ凡例



図面名	調査地点位置図
尺度	S=1:1,000

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 (仮称) 滋賀県立高等専門学校校地質調査業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	Bo-1	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 04' 41.05"
発注機関	滋賀県総合企画部	調査期間	2023年 3月 6日 ~ 2023年 3月 9日	東経	136° 00' 50.20"
孔口標高	T.P. +97.42m	試験機	東邦地下工機製 D0-DLO	ポンプ	
総削孔長	18.00m	エンジン	ヤンマー製 NFD-12	東邦地下工機製 BG-3CL	
方位		地盤勾配		使用機種	

標尺 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験				室内位置試験	削孔月日		
											N値 (m)	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量			自沈時の貫入量	試料採取
1	96.52		埋土・砂礫		灰褐	rd2			含水少ない 礫はφ5~20mm程度の垂円~垂角礫主体	09/07 7.52	9	3	3	9	300			
2			砂礫		黄灰 ~ 灰褐	rd3			含水少ない~中位 礫はφ5~20mm程度の垂円~垂角礫主体 マトリックスは粗砂主体 最大のφ40mm程の礫を点在 少量の漏水を確認		21	6	8	7	21	300		
3	94.12		シルト		暗灰 ~ 灰	rd2		rc2	粘性強い 含水中位 腐植物片, 細砂, 雲母片を僅かに混入		6	3	2	1	6	300		
4			シルト		暗灰			rc3			4	2	1	1	4	300		
5			シルト		暗灰						3	1	1	1	3	300		
6			シルト		暗灰						5	1	2	2	5	300		
7	90.72		砂混じりシルト		緑灰			rc3	粘性中位 含水中位 砂は細砂主体 雲母片を僅かに混入		14	4	5	5	14	300		
8			シルト		暗灰						12	3	4	5	12	300		
9	88.82		砂質シルト		暗灰				粘性中位 含水中位 砂は細砂主体		6	2	2	2	6	300		
10	88.22		シルト		暗灰			rc3	粘性中位 含水中位 細砂を僅かに混入 9.90~10.15mで砂質シルトを挟む		7	2	2	3	7	300		
11			シルト		暗灰						5	2	2	1	5	300		
12	85.12		シルト		暗灰			rc2			16	1	4	11	16	300		
13			砂礫		黄褐	rd4			含水中位~多い 礫はφ5~30mm程度の垂円~垂角礫主体 マトリックスは粘土混じり粗砂主体 最大のφ50mm程の礫を点在 少量の漏水を確認		60	19	19	19	60	300	250	
14			砂礫		黄褐	rd5					44	12	13	13	44	300		
15			砂礫		黄褐	rd4					39	13	13	13	39	300		
16			砂礫		黄褐	rd5					90	18	42	60	90	200	167	
17			砂礫		黄褐	rd4					37	11	13	13	37	300		
18	79.20		砂礫		黄褐	rd5					150	28	32	60	150	120	100	

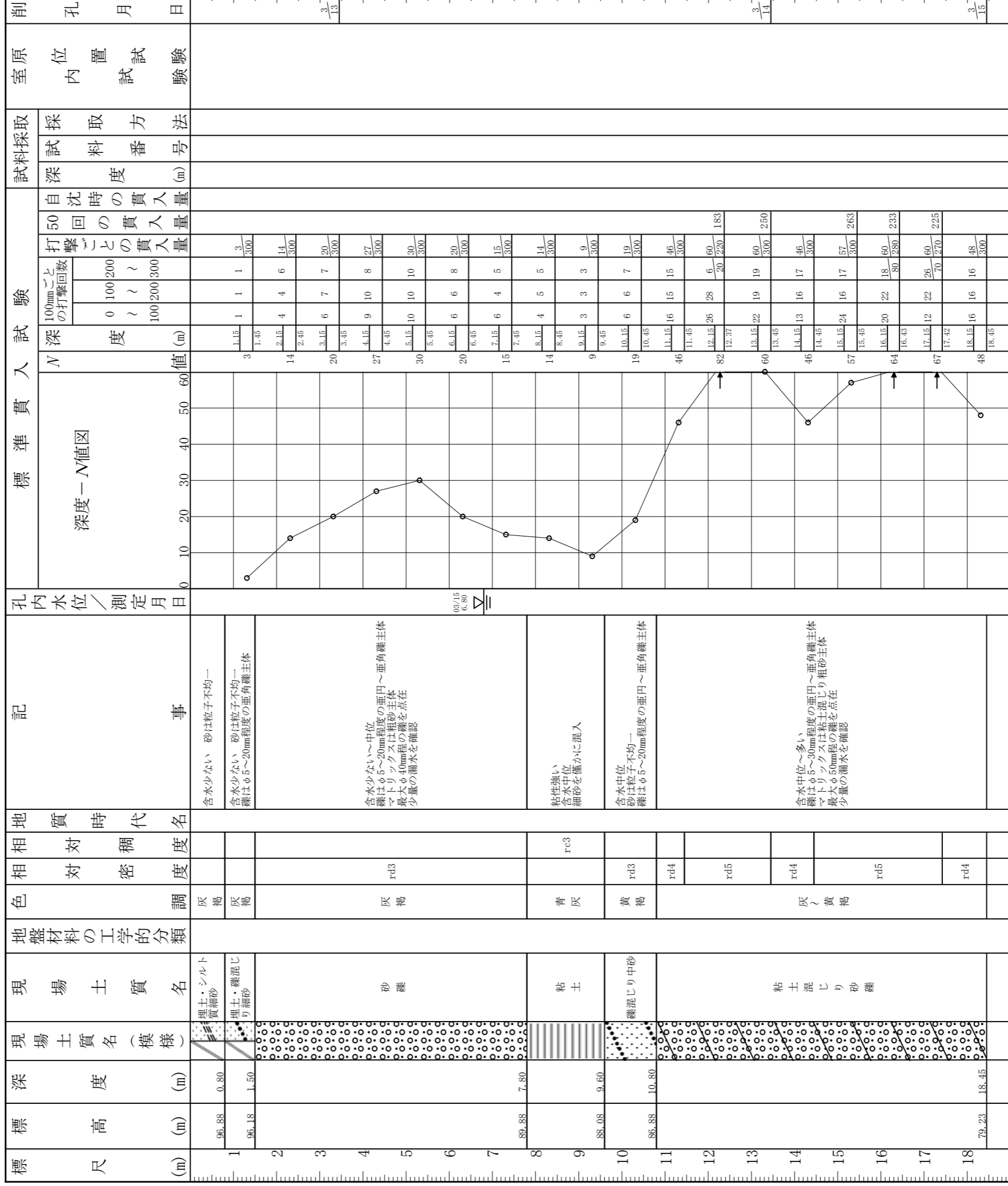
土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

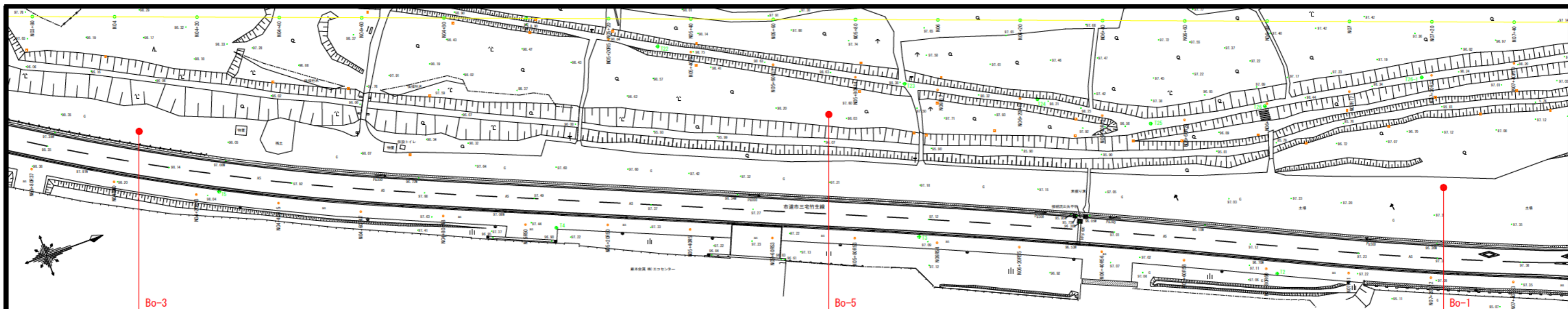
調査名 (仮称) 滋賀県立高等専門学校校地質調査業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	Bo-2	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 04' 42.51"
発注機関	滋賀県総合企画部	調査期間	2023年 3月 13日 ~ 2023年 3月 16日	東経	136° 00' 47.27"
孔口標高	T.P. +97.68m	試験機	東邦地下工機製 D0-C		
総削孔長	18.00m	エンジン	ヤンマー製 NFAD-10	ポンプ	東邦地下工機製 BG-3
		方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		
		角度	180° 上下 90° 0°		
		地盤勾配	水平0° 鉛直90°		
		使用機種			

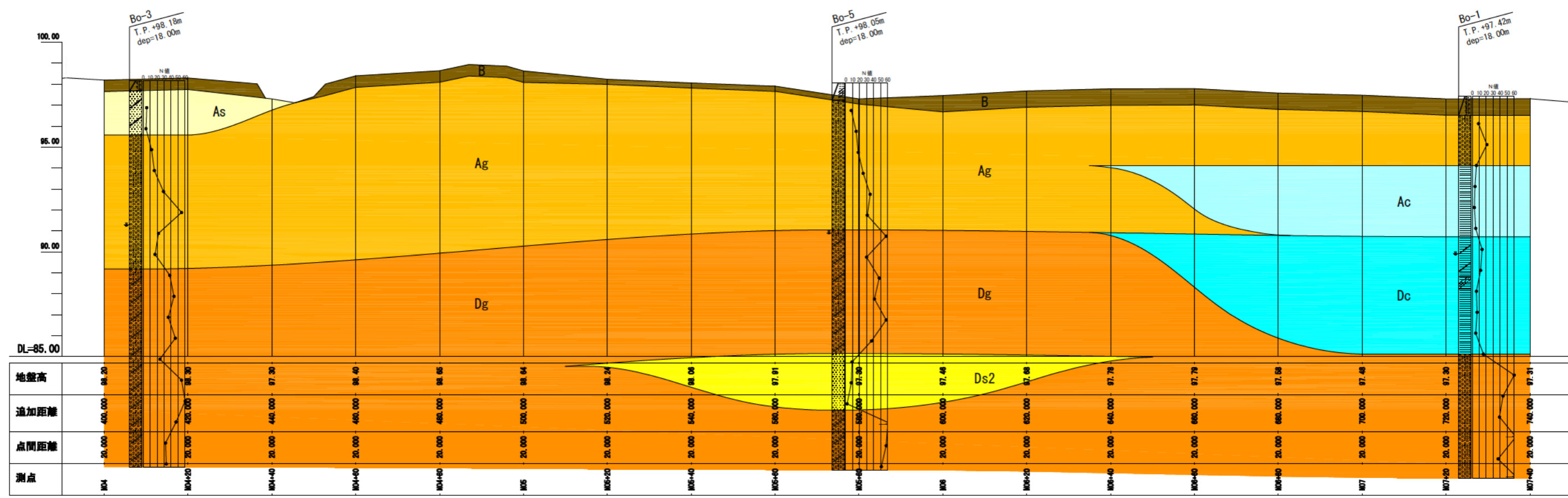




Bo-3
T. P. +98.18m
dep=18.00m

Bo-5
T. P. +98.05m
dep=18.00m

Bo-1
T. P. +97.42m
dep=18.00m

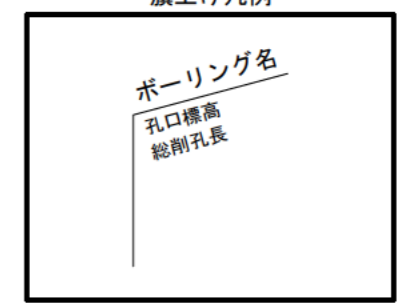


凡 例

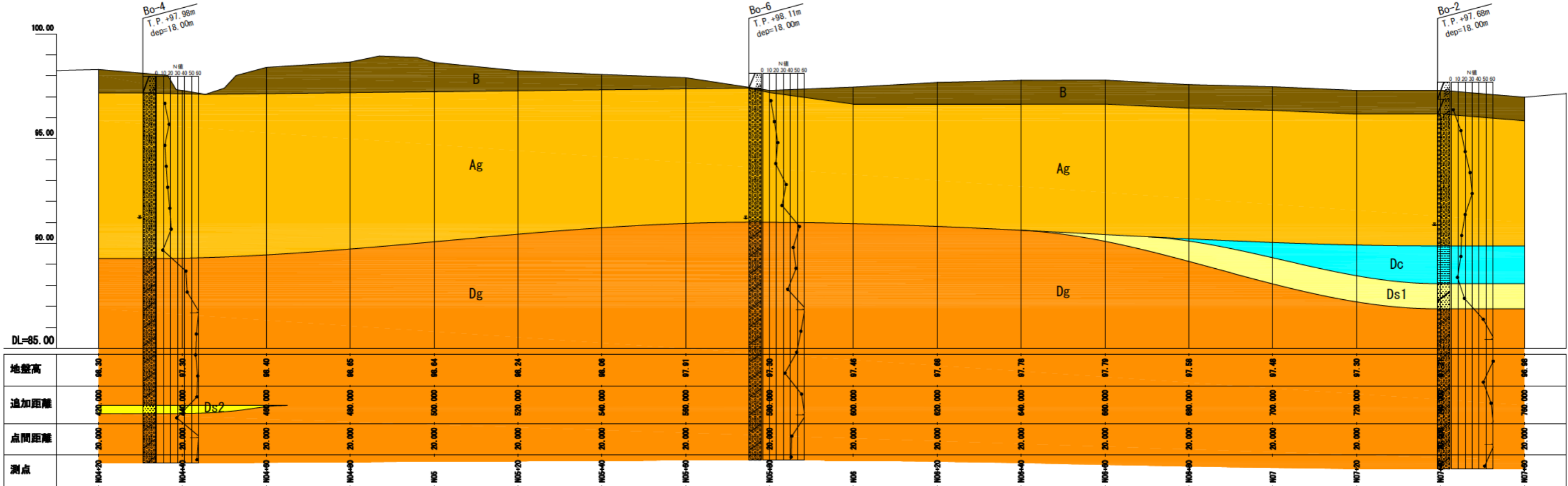
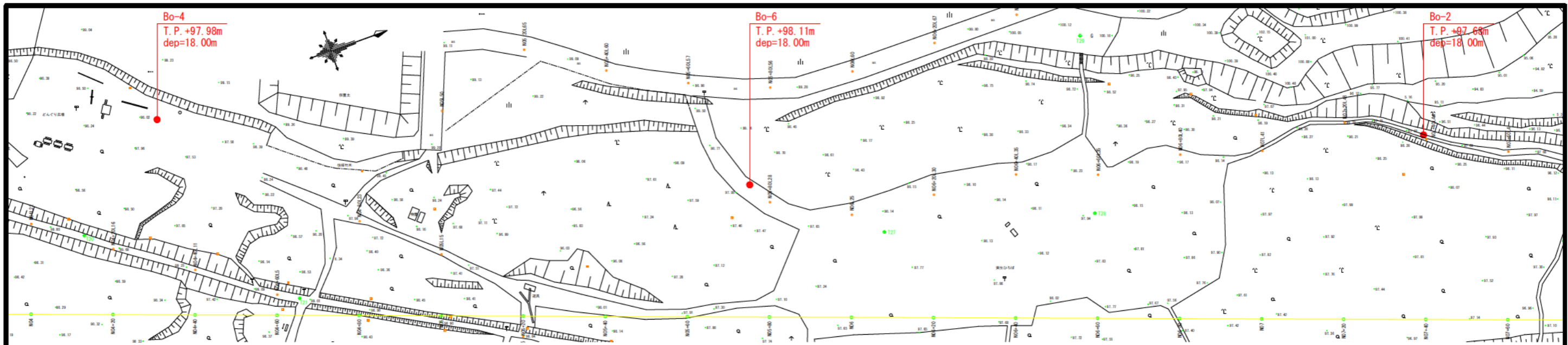
地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土・礫質土・粘性土	3
		完新世	沖積層	As	砂質土
	Ag		礫質土	8~55 (20)	
	Ac		粘性土	3~5 (3)	
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	3~14 (8)
			Ds1	砂質土	19
			Dg	礫質土	24~60以上 (48)
Ds2	砂質土	2~9 (6)			

※ N値の上限を60として算出した。

旗上げ凡例



図面名	調査地点位置図及び地層推定縦断面図
尺 度	調査地点位置図 — S=1:1,000 地層推定縦断面図 — V=1:200, H=1:1,000

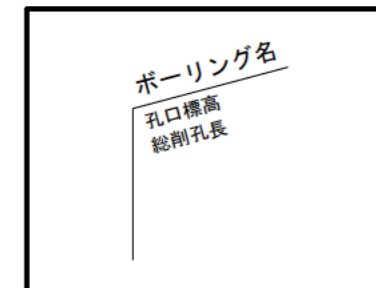


凡例

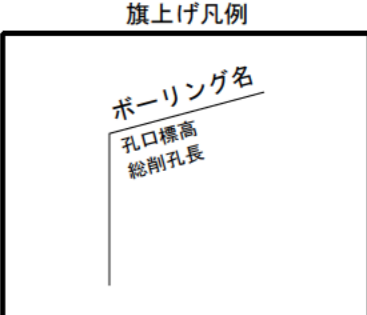
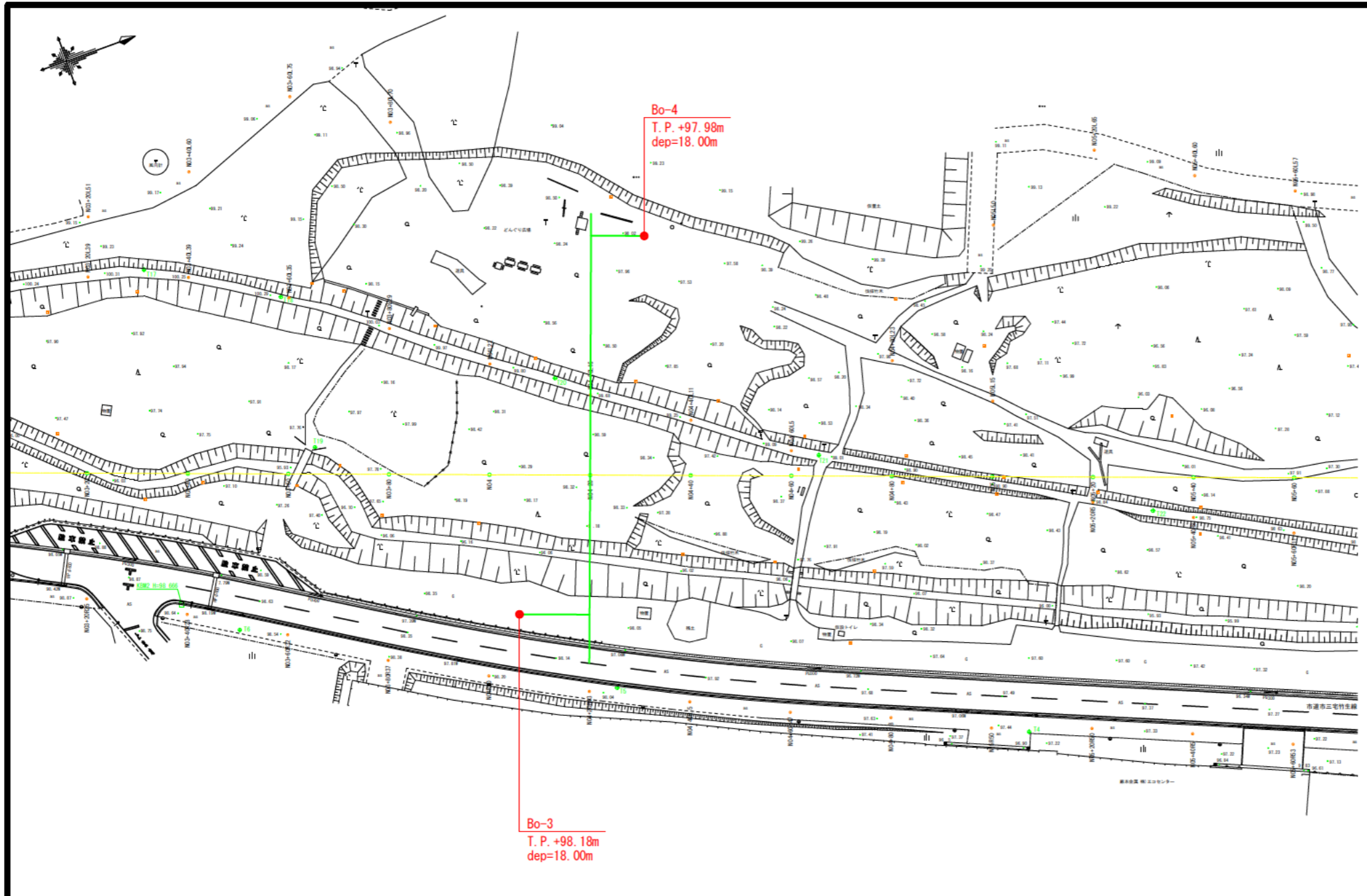
地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土・礫質土・粘性土	3
		完新世	沖積層	As	砂質土
	Ag		礫質土	8~55 (20)	
	Ac		粘性土	3~5 (3)	
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	3~14 (8)
			Ds1	砂質土	19
			Dg	礫質土	24~60以上 (48)
		Ds2	砂質土	2~9 (6)	

※ N値の上限を60として算出した。

旗上げ凡例



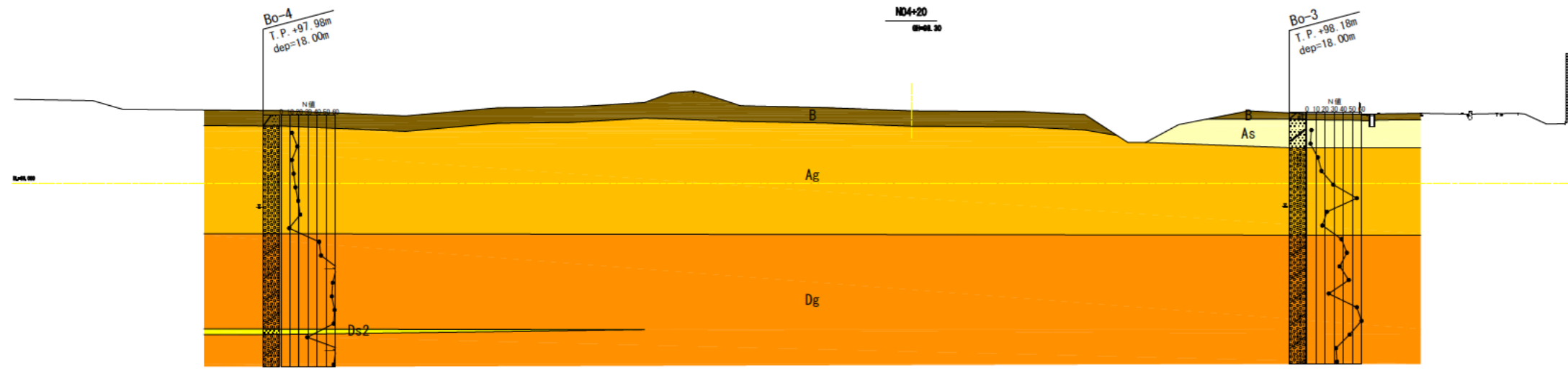
図面名	調査地点位置図及び地層推定縦断面図
尺度	調査地点位置図 — S:1:1,000 地層推定縦断面図 — V:1:200, H:1:1,000



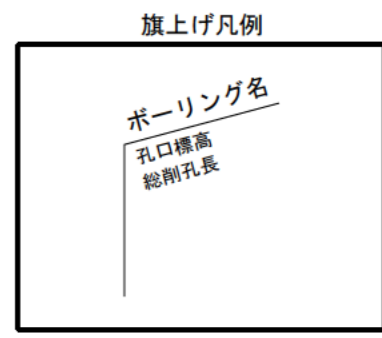
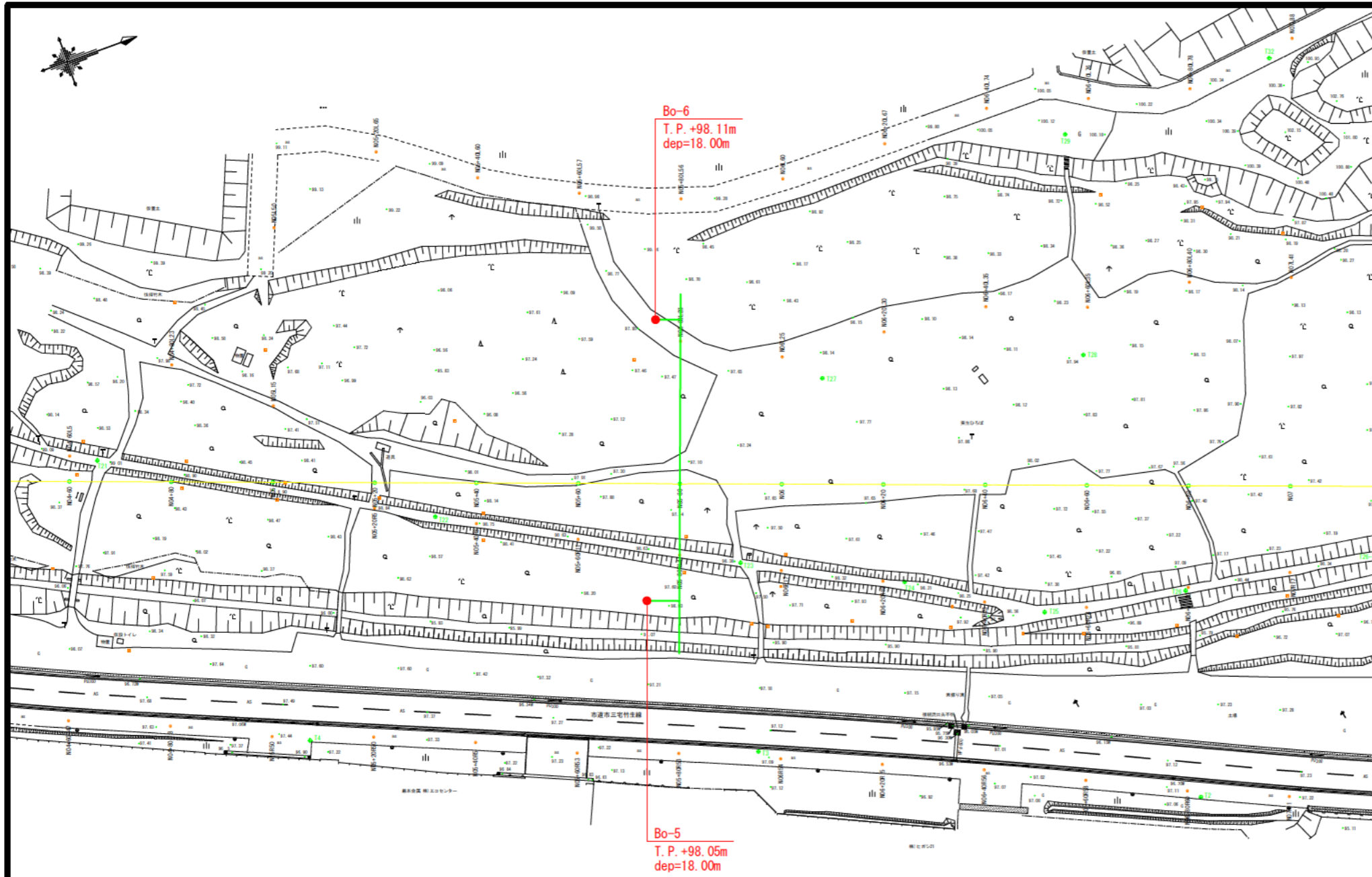
凡例

地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土・礫質土・粘性土	3
	完新世	沖積層	As	砂質土	4~5 (4)
			Ag	礫質土	8~55 (20)
			Ac	粘性土	3~5 (3)
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	3~14 (8)
			Ds1	砂質土	19
			Dg	礫質土	24~60以上 (48)
			Ds2	砂質土	2~9 (6)

※ N値の上限を60として算出した。



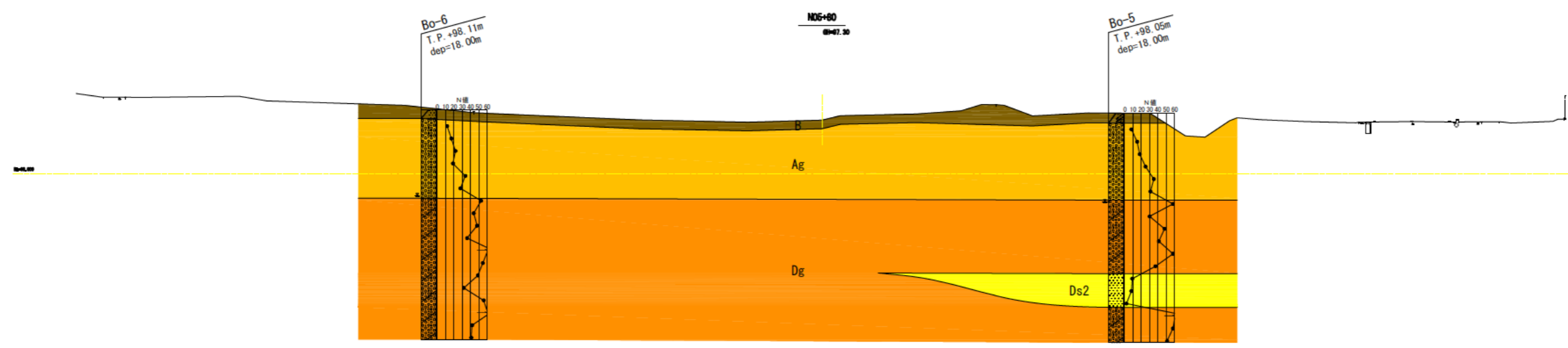
図面名	調査地点位置図及び地層推定横断面図
尺度	調査地点位置図 — S=1:1,000 地層推定横断面図 — V=1:400, H=1:400



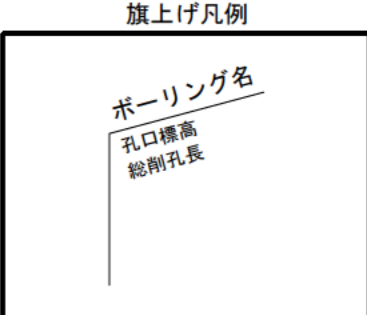
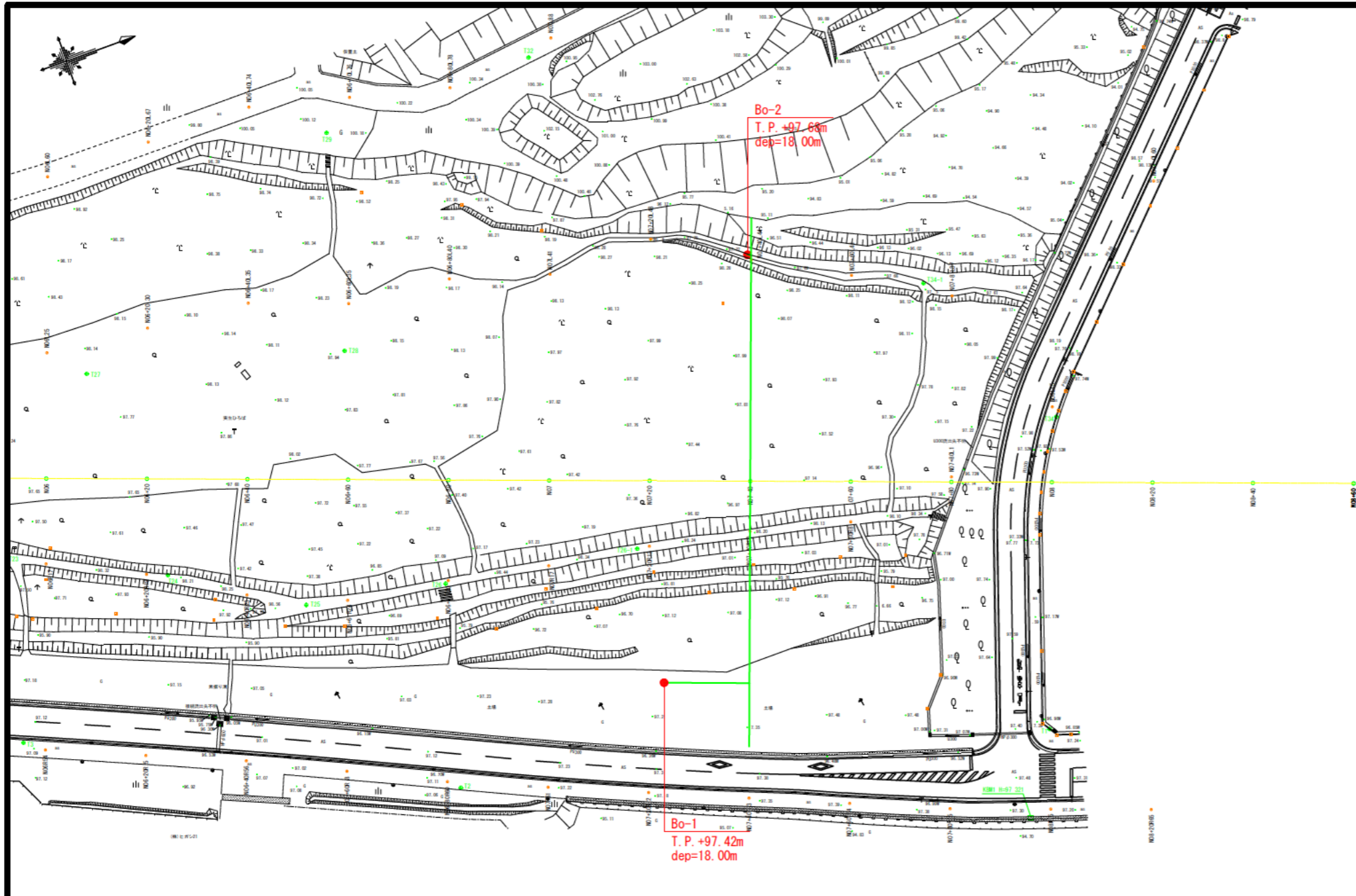
凡例

地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土・礫質土・粘性土	3
	完新世	沖積層	As	砂質土	4~5 (4)
			Ag	礫質土	8~55 (20)
			Ac	粘性土	3~5 (3)
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	3~14 (8)
			Ds1	砂質土	19
			Dg	礫質土	24~60以上 (48)
		Ds2	砂質土	2~9 (6)	

※ N値の上限を60として算出した。



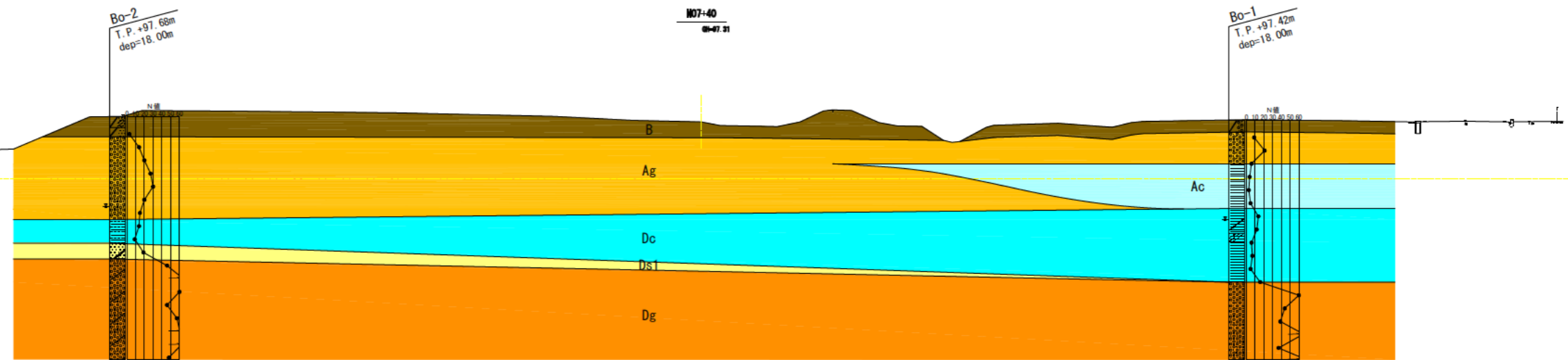
図面名	調査地点位置図及び地層推定横断面図
尺度	調査地点位置図 — S=1:1,000 地層推定横断面図 — V=1:400, H=1:400



凡例

地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土・礫質土・粘性土	3
	完新世	沖積層	As	砂質土	4~5 (4)
			Ag	礫質土	8~55 (20)
			Ac	粘性土	3~5 (3)
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	3~14 (8)
			Ds1	砂質土	19
			Dg	礫質土	24~60以上 (48)
			Ds2	砂質土	2~9 (6)

※ N値の上限を60として算出した。



図面名	調査地点位置図及び地層推定横断面図
尺度	調査地点位置図 — S=1:1,000 地層推定横断面図 — V=1:400, H=1:400

表 4.1.2.本調査地の地層層序表

地質時代	地層区分	地層記号	主体土質	N値※ (平均)	ボーリング結果	
新生代・第四紀	現世	埋土	B	砂質土 礫質土 粘性土	3	本層は敷地造成のための人工地盤である。 土質は細粒土、粗粒土を不均質に分布する。 含水は少ない～中位の状態である。 砂質土の砂の粒子は不均一である。 礫はφ5～20mm程度の垂角～垂円礫主体である。 粘性土は粘性中位であり、混入する砂は細砂主体である。
			完新世	沖積層	As	砂質土
	Ag	礫質土			8～55 (20)	本層は、Bo-3地点はAs層、他地点はB層直下に分布する。 土質は砂礫主体である。 含水は少ない～中位の状態であり、マトリックスは粗砂主体である。 混入する礫はφ5～20mm程度の垂円～垂角礫主体であり、最大φ40mmの礫を点在する。 全地点で少量の漏水が確認された。
	Ac	粘性土			3～5 (3)	本層は、Bo-1地点で確認され、Ag層直下に分布する。 土質はシルト主体である。 含水は中位の状態であり、粘性は強い状態である。 腐植物片、細砂、雲母片を僅かに混入する。
	更新世	洪積層			Dc	粘性土
			Ds1	砂質土	19	本層は、Bo-2地点で確認され、Dc層直下に分布する。 土質は礫混じり中砂主体である。 含水は中位の状態であり、砂の粒子は不均一である。 混入する礫はφ5～20mm程度の垂円～垂角礫主体である。
			Dg	礫質土	24～60以上 (48)	本層は、Bo-1地点はDc層、Bo-2地点はDs1層、Bo-3～6地点はAg層の直下に分布する。 土質は砂礫・粘土混じり砂礫主体であり、含水は中位～多いの状態である。 マトリックスは粘土混じり砂礫主体である。 混入する礫はφ5～30mm程度の垂円～垂角礫主体であり、最大φ50mm程の礫を点在する。 全地点で少量の漏水が確認された。Bo-6地点で、一部粘土を挟む。
			Ds2	砂質土	2～9 (6)	本層は、Bo-4～5地点で確認される、Dg層に挟在する砂質土層である。 土質は中砂主体である。 含水は中位～多いの状態であり、砂の粒子は不均一である。 Bo-5で細礫、雲母片を僅かに混入し、一部漏水する。

※ N値の上限を60として算出した。

表 4.1.3.孔内水位一覧表

孔番	孔口高さ (T.P. m)	孔内水位		帯水層	状態	確認条件	
		(GL-m)	(T.P. m)			方法	日付
Bo-1	97.42	7.52	89.9	Dc	不圧	無水掘り、8m~9mの掘進後	3月7日
Bo-2	97.68	6.80	90.88	Ag	不圧	泥水掘り、泥水を汲み上げた翌朝水位を測定	3月15日
Bo-3	98.18	6.90	91.28	Ag	不圧	泥水掘り、泥水を汲み上げた翌朝水位を測定	3月15日
Bo-4	97.98	6.75	91.23	Ag	不圧	泥水掘り、泥水を汲み上げた翌朝水位を測定	3月8日
Bo-5	98.05	7.15	90.9	Dg	不圧	泥水掘り、泥水を汲み上げた翌朝水位を測定	3月20日
Bo-6	98.11	6.90	91.21	Ag	不圧	泥水掘り、泥水を汲み上げた翌朝水位を測定	3月11日

本調査地で確認された初期地下水位は、GL-6.75~-7.52m (T.P.=+89.90~+91.28m) に分布しており、Bo-1 地点は Dc 層、Bo-5 地点は Dg 層、Bo-2,3,4,6 地点は Ag 層に確認される。

地盤状況から判断すると、本調査地の地下水は、Ag,Dc,Dg 層に分布する自由地下水であると考えられる。

本調査で確認された地下水が自由地下水であるため、調査地に近接する野洲川の河川水位変動の影響を受けるものと考えられる。